

乗務員はどれだけ「無賃」で働いているのか？

必要な作業には賃金を支払うべきでは？

みなさんは、自分の職場での労働時間を把握していますか？今回は、車掌を例に話を進めていきましょう。例えば、車掌の職場での作業について、本来の出勤時間よりも大夫早く出てきて、特急列車の乗務で使う座席整理表の作成、ハツホ、シテイホの打ち出しに時間をとられている車掌さんを目にする事が多いと思います。また、ローカル列車については、終着駅で折り返しの際、座席の方向転換を9両分行っている車掌さんも多いのではないのでしょうか？ご存知の方も多いと思いますが、これらの作業に賃金は発生しません。

問題はここからですが：例えば座席の方向転換、これは現在、作業としては廃止されています。あえて、会社はしなくていいと言っています。しかし、皆さんはどうしていますか？きちんと方向転換をしている方が多いのではないのでしょうか？会社は普段から「お客様目線」を強調しています。たとえ作業として廃止されても、私たちは、お客様のために必要であれば、自ら進んで作業を行いますよね？たとえ無賃であっても…

この他にも思い当たることは、いろいろとありませんか？

そもそも「お客様目線」とは？

このように私たちは、賃金の有無にかかわらず「お客様目線」に立って行動しています。しかし、普段の会社側の対応はいかがですか？お客様から「ご意見 クレーム？」を頂いた時など、皆さんの言い分は聞いてもらえていますか？

また、現場の声を無視した合理化によって、無人駅が増加するなど、お客様が鉄道を利用しにくい環境が次々に出来上がっています。会社が掲げる「お客様満足」とは一体、何なのでしょう？

すべてのお客様に、安心して鉄道を利用して頂くため、そして満足して頂くためには、その分の人員、設備が必要です。お金をかけるべきところにはきちんとかけなければならないのではないのでしょうか？

労働時間を把握していないと、改善されても気づきません。



少しでも疑問を感じたら、私たちに相談して下さい。



若いカ

第 65 号

2017年 2月15日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515